

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

【ドル/円 週足】



これは、年初からトランプ大統領が米国の貿易赤字に懸念を表明し、赤字の多くを占める中国や日本に対し批判を強め、ドル高をけん制する発言をしたことが背景にあります。

トランプ大統領は、彼の支持者の期待にこたえなければならず、そのためには米製造業の雇用を増やす必要があります。米製造業の雇用を増加させるためには、輸出の拡大が必要であり、それにはドル安が有効であるということです。

しかし、トランプ大統領が行おうとしている経済政策は、減税、規制緩和、インフラ投資の拡充という財政政策であり、これは米国の経済成長をもたらすとともに、FRBの利上げ継続を正当化することとなりますが、同時にドル高をもたらすものです。

過激な発言を繰り返す大統領がこの矛盾にどう取り組むのかという点に関し、市場の不透明感が高まり、疑心暗鬼が外国為替市場においてポジション調整を引き起こしていたといえます。

これが2月10日の日米首脳会談の結果、日米のより強固な協調関係が確認されたことにより、当面ドル/円に関しては過度の警戒が必要でないことが示されたことは重要でしょう。

つまり米国は現状水準から更なるドル安を志向することはなく、ドルの下抜けリスクは遠のいたものと考えられます。

したがって、今後は米国の経済実態や金融政策の行方が焦点となる相場となっていくものと思われ

ドル/円相場のトレード戦略

ます。

■ 短期展望

先週は、日米首脳会談を控え、不透明感の高まりから111円59銭までドルが下落しました。しかし、週末にトランプ大統領が大幅な減税実施を示唆したことや日米首脳会談で日本に対する直接的な批判がなく、むしろ日米の協調関係強化を確認するものとなったことで、113円台半ばを回復して週越しています。

ドルの下抜けリスクが遠のき、目先111円台でドルが底打ちした可能性が高まっています。今週は、米国の大型減税や利上げへの思惑を背景にドルの底堅い動きが予想されます。ただし、115円半ばの上値抵抗を抜けていくには、新たな材料が必要と思われるため、113円～115円半ばのレンジを想定しつつ、押し目買いを狙いが有効と考えます。